

神子民を割こつゝなりと云ふ同村は長
十六年の水牝は舞田とあり舞料なりし
と云ふ又福永村は幕免といふ田ありて古
を幕家の領なり是神子の幕免なり彼田
地踊脚といふもの持あり毎年九月九日
流例として幕家を祓の儀と初穂を納
付りて巫女一人ハ上杉橋村よりて今
神子免といふ田地ありと云ふ牝求の事
いふこと見されば要し事を志すを言を
つゝもの二月六日乙午の神事に此神子
民を安んずる今一人の巫女ハ同村はあり
是長十九年水牝は神子免る二十割と云ふ
とあり屋敷も神子免門屋とあり彼家を年
と云ふを云ふと稱し其代々巫女にて
社（幕仕を）に幕家を没収をされ一年
幕仕をいふ

一番人方

お供より多るに属せり私曲を祈つゝ古
長年中目安の内は堂裏に人々集ると有
て此ハ古俗本社を捨て此堂にあり神を